

「第2回 まちなかを考えるシンポジウム」開催結果報告

まちづくり部都市計画課

1 概要

▼日時 2024年4月15日(月)午後1時30分～4時00分

▼会場 尾張一宮駅前ビル(i-ビル)2階 大会議室

▼参加者 100名(一般参加者:84名、市関係者:16名)

▼第1部 銀座通りの未来のデザインを考えよう

進行 出村 嘉史(でむら よしふみ)氏

(岐阜大学社会システム経営学環 教授/一宮駅周辺地区デザイン懇談会 座長)

登壇者

西村 浩(にしむら ひろし)氏 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役

大野 暁彦(おおの あきひこ)氏 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 准教授

稀温(きおん)氏 Kion Studio 代表/コーディネーター

安藤 晴美(あんどう はるみ)氏 NPO法人おさんぽや 代表理事

富田 隆裕(とみた たかひろ)氏 一宮市銀座通商店街振興組合 理事長

渋川 誠(しぶかわ まこと)氏 日本エコシステム株式会社 財務部長

▼第2部 まちなかの使いこなしを考えよう

進行 名畑 恵(なばた めぐみ)氏

(錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役/NPO法人まちの縁側育くみ隊 代表理事)

登壇者

出村 嘉史(でむら よしふみ)氏 岐阜大学社会システム経営学環 教授

西村 浩(にしむら ひろし)氏 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役

星野 博(ほしの ひろし)氏 NPO法人志民連いちのみや 理事長

喜多 茂樹(きた しげき)氏 株式会社エコ建築考房 代表取締役

石黒 太輝(いしぐろ たいき)氏 c_thought coffee デザイナー

2 第1部の内容

「第1回まちなかを考えるシンポジウム」の内容を踏まえ、デザイン懇談会で作成した中間とりまとめ案を発表し、以下の内容についての討論を行った。

- ①エリア間の連続性を確保する
- ②沿道が溢れ出す、まとまった広場
- ③銀座通りから本町通りへつなぐシンボリックな場
- ④駅前広場の機能再編

登壇者意見

- ・ 駅を降りてはじめて見る風景はまちの価値を決める。
- ・ 一宮市を「BED TOWN」から「BED AND LIFE TOWN」へと向かうためには、銀座通りの本質的な役割を再認識し、一宮駅前のエリアを常に期待感のある場所に転換し、近隣を含め豊かなウォークアブル空間で新しい都市活動を促進していくことが重要である。
- ・ 公共空間に対しての投資のメリハリをつける必要がある。

- ・千歳通りの通行止めを実現するためには、迂回車両による渋滞の影響に配慮する必要がある。
- ・銀座通りの再編については、まだまだ議論しながら進めていく段階である。
- ・夜でも一人で安心して歩ける仕組みづくりが重要である。
- ・一宮駅周辺には計画的な緑がほとんどない。
- ・地上部の緑だけでなく、土壌環境を含めたグリーンインフラもデザインしていく必要がある。
- ・駅からの安全性が高まり、緑が増えると子育て世代も安心して暮らし、訪れやすくなる。
- ・子育て世代が増えると駅周辺に集まる属性の多様性が広がり、様々な商売もしやすくなる。
- ・今後は道路幅や車線数等の議論を進めていくと思うが、商店街として、停車スペースは必要である。

(第1部のまとめ)

- デザイン方針については、皆様の合意を得られたものと認識した。
- 今後も議論を共有し、地元の意見を聞きながら未来のデザインを考えていきたい。
- 次の時代を継ぐ人、新しい参加者を増やしながらか、ここ一宮でのやり方を作っていくことが課題である。

(市長コメント)

- 議論を重ねる中でしっかりと意見を集約していきたい。
- 駅からまちに人を呼び込むことに関する大きな方向性に合意できたことは重要な一歩である。
- まちなかの改善に合わせて、周辺の交通影響についての検討や、銀座通り周辺の小路も含めた公共空間のデザインについて、全体最適を考えて議論を深めてほしい。

3 第2部の内容

まちなかを使いこなすにあたり、これからの駅前を活用するためにはどうしたらよいか、現状を踏まえ今後の在り方について討論を行った。

- ・公共空間を使いこなすためのソフト面のマネジメントが非常に重要である。
- ・現状の銀座通りは休日であっても歩く人が少ないため、今後は大規模ではなくともぽつぽつとお店を増やしてくことで人通りの増加につながる。
- ・公共敷地を活用してまち全体が楽しくなるような取り組みを今後も続けていく必要がある。
- ・地域に貢献する取り組みを行っており、その経験を活かし、地方都市のまちなかにおける課題解決にも役立てる可能性を感じている。
- ・商売敵ではなく仲間意識をもって集まりチャレンジしていくことが重要である。
- ・昔はハードが良くなれば人が来たが、今は公共空間を活用する人を先に見つけなければ、作っても誰も思い入れを持たず、人も来ない。

(第2部のまとめ)

- 沿道との繋がりを作るため、賑わいの見える化をして貢献したいという意見があった。
- 本町通りから目的地づくりを始めることが大事であり、駅と本町を繋ぐのが銀座通りである。
- 銀座通りを今後どのように整備し、使いこなすかを今後も話し合っていく。
- プレイヤーになろうと思う人がチャレンジしやすい場を作るには、プレイヤーを応援していきうという市民の心構えも大事である。

- 自由と責任（管理）は、まちを大事に思っている人に押し付けるのではなく、まち全体で考えていくべきことである。これが今後のエリアマネジメントや新しいコミュニティ作りに繋がっていく。

4 全体のまとめ

- シンポジウムを続ける中で多くの意見を出し合って、このまちの未来を支えるプロジェクトになることを期待する。
- まちなかに若者から高齢者までバランスよくいる状態に戻すことが大事である。
- シンポジウムで出た意見を社会実験で試し、良いことは進化させ、新しい未来を探求することで一宮らしい日常ができると期待する。
- 市もチャレンジに協力してほしい。

5 当日の様子

